

はじめに

これからの時代の教員には、これまで不易とされてきた資質能力に加え、より高度な専門性を獲得するため、「学び続ける教員像」の確立が必要とされています。

さらに、変化の激しい社会を生き抜いていく人材を育成するためには、教員自身が社会や環境の変化を的確に把握したうえで、状況に応じた適切な学びを提供することが求められています。

また、いじめ・不登校など生徒指導上の問題や保護者・地域との協力関係の構築等に加え、新しい時代に必要な資質能力を児童生徒に育成するためにアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等、教育現場は新たな課題に直面しています。

これらの諸課題を解決するため、教員一人一人が力量を高めるとともに、管理職のリーダーシップのもと、「チーム学校」として組織的、協働的に機能する学校力の向上を図る必要があります。

このような背景のもと、学び続ける教員を支援するため、教育センター学びの丘では、「研修」「研究」「支援」を3本柱とし、これらを相互に関連付けながら各種の事業を展開しています。

本誌は、当センターが実施する事業がより充実し、学校現場に寄与できるものとなるよう所員が今年度研究した以下の4つの内容を掲載しています。

「教育センター学びの丘が実施する初任者研修内容についての一考察」は、初任者教員の実践的指導力向上を目指すプログラムを検証しています。

「学力調査結果資料の授業改善への活用について」は、全国学力・学習状況調査や県学習到達度調査の結果分析を有効に活用し、授業改善の一助になるものと考えています。

「効果的な研修デザインについての一考察」は、国語科が本県の学力課題でもあることから、研究会での具体的取組を通して効果的な研修モデルについて検証したものです。

教育相談の分野からは、「不登校についての考察」として、不登校のタイプ別事例から子供理解を深めることの必要性を考察し、学校でできる支援を考える上で有効な事例検討の一方法を紹介しています。

以上、これらはいずれも教育現場における本県が抱える喫緊の課題に対応するための研究内容であると考えています。本誌の内容が学校教育活動の活性化に役立つことはもちろん、本県教育のさらなる充実につながることを願うとともに、ご高覧いただければ幸いです。

平成28年3月

和歌山県教育センター学びの丘

所長 木皮 享